

平成 24 年度・第 2 回鎌倉市交通計画検討委員会 議事録

日時 平成 24 年 9 月 27 日（木） 午後 3 時 30 分～午後 5 時 30 分

場所 鎌倉芸術館・集会室

議事

1. 委員紹介及び確認事項

（事務局から委員の紹介）

【事務局】 検討委員会を開会するに当たり、4 点ほど確認をお願いしたい。

1 点目は情報公開についてである。鎌倉市交通計画検討委員会条例施行規則第 4 条にて「会議は公開とする」としている。従って、今回配付した資料は全て情報公開の対象となる。

2 点目は傍聴についてである。今回の鎌倉市交通計画検討委員会の傍聴者を広報やホームページ等で募集をした所、5 名の申込みがあった。よって、傍聴も認めたいと考える。

3 点目は会議の議事録についてである。原則として公開となるため、議事録を作成次第委員の皆さんに確認頂いた上、公開したいと考える。なお、発言者の氏名については非公開とさせて頂く意向である。

4 点目は第 1 回の鎌倉市交通計画検討委員会議事録についてである。皆さんに内容の確認をして頂き、修正要望があった箇所については修正を加えた上で最終案としたものを会議資料と共に送付させて頂いた。

昨日までに新たな修正要望が無かったため、この内容を持って確定とする。

以上の 4 点が確認事項である。

【委員長】 事務局からの確認事項「資料は全て情報公開の対象」「傍聴者への公開」「議事録の公開」「第 1 回鎌倉市交通計画検討委員会議事録（案）の確定」について何か意見等はあるか。

【●●委員】 議事録の修正箇所については、どの部分が修正されたのか分かるように配慮を頂きたい。

【事務局】 指摘のとおり対応したい。

【委員長】 意見が無ければ事務局の説明どおり、了承する事で良いか。

【委員一同】 異議なし。

2. 議題

(1) 鎌倉地域地区交通計画の今後の方向性（案）

（事務局から資料の説明）

【●●委員】 資料 3 ページの項目⑥という観光客の交通手段分担率に関して、ここに書いてあ

る自動車というのはバスやタクシーは含まないのか。

【事務局】資料 6 ページの⑥にグラフが書かれているが、自家用車のみで、バスなどは含んでいない。

【●●委員】資料 18 ページの今後の方向性で、主に自動車交通の問題に限られているが、特に江ノ電に問題があると考えている。私は江ノ電の稲村ガ崎に住んでいるが、七里ガ浜、稲村ガ崎、極楽寺、長谷、この辺りの観光客の乗り降りがとても多い。江ノ電の乗降客数のデータだと全然見えてこないが、特に観光シーズンは、鎌倉駅の場合、江ノ電を 3 本待ちとかそういう状況である。そのような状況は皆さん承知しているのか。

【副委員長】専門部会でもその話がでた。私は知らなかったが、鎌倉駅で江ノ電に乗るための待ち行列が紀伊国屋の辺りまでいっていたとのことだった。これは江ノ電の認知力でもあるだろう。ただ、江ノ電は江ノ電でとにかく頑張ってもらって、公共交通ということであれば、あとはバス、タクシーでどう頑張っていくかということである。自動車が渋滞を引き起こしたり、歩行者に危険をもたらしたりということは間違いないので、基本的には公共交通、歩く、自転車等に転換していきたい。ただ転換先にもう少し余裕がないといけないので、バス、タクシーをもっと活用していくことについて議論したい。

【●●委員】公共交通の中で鉄道の問題は J R や江ノ電に任せるということでここでは取り上げないということか。江ノ電はラッシュアワーなどの本来なら 4 両で走らなくてはいけない時間に 2 両にしている。その辺りのやり方が我々には理解できない。

【●●委員】江ノ電でラッシュアワーに 2 両編成を走らせるというのは原則的にはない。車両の運用上や、車両の故障や不具合があったりする場合は、やむを得ず 2 両編成で走らせることもあるが、現在のダイヤでは、2 両編成を走らせるということはない。ただし、現在、節電ダイヤというものをやっていて、車両数を減らして走らせることはあるが、それは日中の時間帯だけのことで朝夕のラッシュ時間は全て 4 両編成である。

【委員長】江ノ電における休日対応とこれからの地域に対する対策は何か考えられるか。

【●●委員】現在の輸送能力は限界に達していて、後は少しでも多くの乗客を一度に運べるような車両の改造等、そういったところに着手していかなければならないと考えている。現在、列車は 4 両編成で走っており、これ以上の輸送には限界がある。一度に乗客を多く運ぶには車両の改造等が必要であるため、今は座席の撤去や車椅子スペースの確保の対策は行っている。

【委員長】なかなか物理的には難しいということか。

【●●委員】難しい。

【●●委員】その対応として、バスやタクシーを利用したらどうかというような、いい加減な回答はない。歩行空間を広げようという施策がある中で、車道が狭くなればもっと車が動かなくなる。土日に買い物に行くといっても駐車場から通りに入るまで何十分もかかる。そん

なところにバスやタクシーを利用したらどうかという対策は不可能なので、もっと根本的に、観光客に歩いてくるように、パーク&ライドを十分に活用すること。パーク&ライドで、年間に2,600台とか3,000台の車が利用するというが、年間2,600台とか3,000台といったら一日に10台にも満たない。市内移動のためにフクちゃん号というバスが動いているが、そのフクちゃん号も人が乗っていないのに動かすというのが決まりになっていて、混んでいるところでも動かさないといけないという。パーク&レールライドというと江ノ電に負担がかかる。とにかく人数が多いということに対しては歩くことを優先しなければ、鎌倉の観光や渋滞に関してはおそらく不可能だと思う。

【委員長】 頂いたデータを見ると、江ノ電は100万人くらいの方が電車を利用して歩いている。しかし、それでも混んで仕方がないという、全体を減らす話になる。特異日があるということと、普段の生活において支障をきたす日と、たぶんいくつかパターンがある。そのため、全ての日にうまく対応するのは一つの方策では無理かもしれない。確かに電車も満員なら他も満員だろう。進入を制限するぐらいじゃないとどうしようもないかもしれない。

【副委員長】 問題意識としては同感である。歩く観光等に関しては、平成7年の計画でも、今回の専門部会でも同じ意見である。高齢化という点もあり、公共交通で動くことは非常に重要であるが、特に休日、バスに乗ってどこか行こうというときに、行けない、動けない。市民にとって非常に重大な課題だということも専門部会で出ているので、歩くことはもちろん一番大事だと思うが、公共交通で色々なところに行けるというのも、交通システムとしては重要なことではないか。

【委員長】 パーク&ライドの話について事務局から少し説明して頂きたい。

【事務局】 資料の23ページを参照して頂きたい。右側にパーク&ライドに関する表があり、七里ガ浜、由比ガ浜、江ノ島、稲村ガ崎、の4箇所を実施をしている。導入当初の平成13年には計1,393台であったが、平成21年になると13,078台となった。平成22年は東日本の大震災があったということで落ち込んでいる。しかし、毎日のように色々問い合わせがあるので、利用者は伸びると思う。先ほどフクちゃん号の話があったが、渋滞に巻き込まれてしまい定時制が確保できないということで、午前は鶴岡八幡宮まで行けるが、午後は鎌倉駅で折り返しをしている。また、交通事業者の協力で、鎌倉駅から長谷駅間は江ノ電を使う。当然バスが動かないとなれば江ノ電を利用して頂くような仕組みである。これからパーク&ライド駐車場を増やして行こうと考えているが、敷地がないということから、現在4箇所の駐車場だけである。

【委員長】 パーク&ライド利用者は当然電車を使うわけだが、電車が満員だという話になると所詮同じことになってしまうのか。

【事務局】 観光先によってだいぶ違う。レールライドについては江ノ島、稲村ガ崎、七里ガ浜が江ノ電を使う。由比ガ浜についてはバスを使って観光して頂き、バスが5路線自由に乗れるシステムである。今回、パーク&ライド利用者の方にアンケートを考えており、観光客がどう考えているかというのは、傾向が分かると思うので、アンケートの結果次第で改善して

いきたい。

【●●委員】 ゴールデンウィークに鎌倉駅西口ですごい行列を偶然見たことがある。資料 16 ページの 5 月 4 日の渋滞を見るとゴールデンウィークは正月の三が日くらい好評なので、ちょっと早すぎるかもしれないが、世間的にそろそろゴールデンウィークも渋滞対策をやった方が良いのではないかと思う。

【委員長】 特異日を対象にということだが、かなり特異な日と、平日と休日、休日の中で比較的多い休日と、どのぐらいのレベルで対応を考えたらよいか。普通の休日であってもそうなのか、そうであるとすれば電車が満員なわけだから、電車で来て下さいというのもちよっと言いづらくなる。どの辺りの特異日を狙っていくのか。

【副委員長】 専門部会で一番議論になっていたのがバスである。市民の皆さんの感覚からすると、特に一番話題になったのが金沢鎌倉線で、資料 16 ページの 5 月 4 日はもちろんだが、その前の 15 ページもそうである。鎌倉霊園のところから交差点に向かってここだけが渋滞する。これは 14 ページの平日でもそうである。鎌倉市民の方にとって、駅に何時につくか全然読めないということが日常生活で非常に困る。特に休日になると、結婚式等に行こうというときに、まったく時間が読めなくて、市民生活に困るということが、非常に強く専門部会で繰り返して話された。定性的に言うのであれば、例えば休日でも平日でもそうかもしれないが、市民生活が正常に行えないくらい、バスが混んでしまうような日がターゲットになる。

【委員長】 具体的にそういう日がどのレベルなのか特定をするには、トラフィックカウンターの一年間の交通量を並べてみるなど、もう少しイメージを高めていく必要がある。どなたかは正月のイメージ、どなたかは秋の休日のイメージを描いて議論しているとどうしても混乱をするので、本当に特異である正月の三日間は別と考えるとして、ゴールデンウィークはどの辺りのレベルなのか、ターゲットとなる日のイメージをなるべく共有できるようにして議論をさらに深めていけると良い。

【●●委員】 藤沢土木事務所に伺いたい。現在問題になっているところ、例えば大仏前や北鎌倉周辺など、歩道が狭くて歩けないから人がはみ出しているようなところについて、歩行者の安全に対して何か手があるのか。また、国道 134 号の鎌倉高校前の交差点についてはどうなっているのか。今から十数年前に、あそこを張りだしでやろうという話を聞いた記憶はあるが、その辺りはどう考えているのか、もし分かったら教えて欲しい。

【委員長】 道路関係の話だが、具体的に道路の個別の改良計画として何か指標となるものはあるか。

【●●委員】 道路管理者としては、当然しっかりした歩道に整備をしたい。私も家族でこの道を通って鎌倉散策するが、大変怖い思いをしながら江ノ電にやっと入れる状況である。歩くのを基本としているが、歩くときも危険だということで、認識は多分一緒だと思う。なかなか土地の確保が出来なくて歩道整備にまだ至っていないというのが、ここずっと続いている状況である。

【委員長】具体的に道路の改良等の計画で、鎌倉の中でこれから可能性があるところはあるのか。

【●●委員】私が住んでいる国道134号の鎌倉高校前に右折レーンを造ってもらおうというので、先日、藤沢土木事務所から説明を頂いて、来年辺りできるのではないかと期待している。結局あそこが渋滞すると、稲村ガ崎辺りまで詰まる。鎌倉高校前のところに早く右折レーンを造ってもらえば、だいぶ改善するのではないか。

【委員長】これから道路の部分改良でもやれそうなどころがあれば、是非情報として教えて頂きたい。

【●●委員】今お話頂いた国道134号の改良工事は、台風により道路が陥没して交通止めになったことがきっかけで、鎌倉高校前の右折レーンを確保するために、若干石積みを砂浜の方に出すことになったが、その前後の石積みも老朽化しているため陥没が頻繁に起こるといけないので、全体を補強しようということになった。それには大変な事業費がかかるが、計画的にやることで幅員が確保できると考えている。鎌倉高校前は急勾配になっている等、大変難しい交差点で、信号処理も難しい。警察との協議や住民説明会を何度もやっており、早くに整備したいと思っている。

【委員長】特定箇所の改良の工夫に関して、全面的にはなかなか厳しいと思うが、部分的でも良いからどういう工夫ができるのか、専門部会で是非話し合ってもらいたい。

【●●委員】私は以前から、歩く鎌倉を提唱している。今後、鎌倉が世界遺産に選ばれるかもしれないことも含めて、パーク&ライドという言葉を使っているのなら、パーク&ウォークというテーマを提唱して欲しい。お彼岸のときに鎌倉駅西口の改札口で、一人ボランティアをやった。江ノ電に乗らずに歩いて、例えば長谷の方まで、裏を歩いていけば結構歩いていくことができる。それも結構楽しいものではないかということで、見知らぬ観光客に声をかけて12、13人を案内してみた。その結果、歩いた方が鎌倉をとってもよく分かって良かったと言われた。それは私ひとりの体験だが、やはり鎌倉は観光も大事だと思っているので、パークをして歩くまたは乗って来て歩く、パーク&ライドではなくパーク&ウォークを鎌倉らしいやり方として、ここから発信していったら良いのかなと思っている。それからもうひとつ、私は北鎌倉までよく歩くが、道が狭く、車をよけたり自転車をよけたりが大変な道である。北鎌倉のあたりから歩行者のために、地面に色を塗って歩く道ができたがフェンスはない。例えば、鎌倉駅西口の方の今小路通りを六地藏に向かうと、市役所から御成小学校の前を通って立派なフェンスができています。大木を残して上手にできているため、北鎌倉にもああいふフェンスを作って頂いたらちょっとは違うのではないかと思う。あそこは北鎌倉女子学園の学生たちもいつも通っており、広がらないように歩いても観光客等の他の歩行者もいる。トンネルの中から建長寺を歩いて裏側へ抜ける道など全然垣根がない。道を広げることが出来ないならば、そういうことを考えてはいかがかと思う。

【委員長】道路の部分的な改良の話と、その前に、駐車場から歩くということをもっとうまくやったら良いという意見であるが、街なかに駐車場がだいぶ増えている。その駐車場に停め

た車はどこから来ているのか、その辺りは今回さらなるアンケートで調べようということなので、後ほど議論して頂ければと思う。

鎌倉に観光に来る方で車を利用しなければならない、どうしても車でなければいけない方たちは、当然駐車場が必要だと思うが、駐車場の場所が鎌倉を突っ切って行かないと停まれないとなると、街の真ん中の駐車場へ向かう車が往来するわけだから、それは良くない。駐車場の位置をどうするかという意味では駐車場と、どこからお客さんが訪れているか、そしてどこへ向かうのか、その辺りの全体のマネジメントがうまくできるともう少し楽になるかもしれない。駐車場はだいぶ増えているようなので、この辺りのアンケート結果等また議論することができればと思う。

【●●委員】 前の計画のとき、市民宣言に「私たち鎌倉市民は歩いて楽しいまちをつくる」というのがあったが、実現に向けては地区の人達が来訪客と協力しなければならないので、やはり市民も来訪者も歩いて頂くと楽しめる街というのを徹底していったら良いのではないかなと思う。

【委員長】 アンケートの話に近づいているが、今後の方向性についてももう少し意見を伺いたい。

【●●委員】 今回のここの議題は今後の方向性だが、今回原案と出ているところでは、特定箇所と特定日に絞って委員会で検討していこうということを論じる場だと思う。今たくさん個別の特定箇所の案件が出てきて、果たしてこの委員会が今後絞って、ここを今回はやるよと言ったときに、委員の皆さんが納得頂けるのかどうかというのがすごく大きな問題だろう。今日そこを絞っておかないと、アンケートをやって、専門部会で絞り込んだときに、いやそこじゃないとなる。鎌倉にはかなり多くの箇所でも問題を潜在的に抱えていると思う。きりが無い中を、今度の交通計画では絞り込むところが、ある意味大きな特色というか勇気というか、効果を出すべき判断だと思う。その辺は委員長を含め、皆さんどう思っているのかが、今日の議論のとても大事な部分だと思う。

【委員長】 まず専門部会で特定箇所というのはどのような議論があったのか。

【副委員長】 特定箇所という表現が若干、誤解を招きやすかったかも知れないと反省をしている。特定箇所という意味は、専門部会で議論されているのは、特定の交差点に右折レーンをつくらうということではない。先ほど言ったように、金沢鎌倉線、あれはどうしても問題になるなど、あの問題を解決しようじゃないかと言うことで、路線単位での議論がされた。少しのことで渋滞してしまう路線が何本もあり、それは全然緩和していないという認識で、ここについては何とかしなければいけないというような議論がなされた。

【委員長】 先ほどから話に出ていた特定箇所のピンポイントの改良が渋滞の改善に役立つかもしれないので、それも是非、議論頂きたいと思う。全てのことを一回では出来ないで、鎌倉の交通計画ではどういうところを改善するために、何を大事にして考えるかということをもう少し鮮明にしていくように努力する。駐車場の計画や歩く話も出たのでアンケートの中身を紹介頂いて、それも含めて皆さんから意見を頂いた方が良いと思う。

(2) アンケートについて (P. 21～)

【委員長】 この市民アンケートはいつ頃配付されるのか。

【事務局】 資料 1 ページのアンケートの進め方で説明をさせて頂いたが、この第 2 回の検討委員会で皆さんに了承頂いた後に、11 月頃を目処に考えている。その後、その結果をまとめて専門部会で諮りたいと考えている。

【委員長】 今日意見を頂き、文言の細かなところなど、もし議論が別れるようであれば専門部会で再度検討して、アンケートを秋には実施したいという考えで、各委員から意見を頂ければ幸いである。

【●●委員】 まず市役所の駐車場利用者アンケートだが、市役所の駐車場は休日しか使えない。

【委員長】 休日対象のアンケートである。

【●●委員】 了解した。

【●●委員】 市役所の駐車場は有料か。

【委員長】 現在の市役所の駐車場の利用状況を簡単に紹介して頂きたい。

【事務局】 市役所は土日、休日、祭日はシルバー人材センターの方で管理をしている。20 分 100 円ということで、1 時間 300 円。土日、休日、祭日をシルバー人材センターにお願いをしてアンケートを実施したいと考えている。

【●●委員】 市役所の駐車場は高い。観光で歩いていて 10 時間したら 3,000 円。しかも午後 6 時で終わる。時間的に考えると市役所に車を置いてちょっと観光して午後 6 時まで移動して下さいということに等しい。アンケートでそのような項目があるか分からないが、それを考えたうえで対応しないと、あの場所の利用価値は難しくなる。値段的には最大 1 日 1,000 円に収めるのが一つの方法かもしれない。

【事務局】 今指摘があった件だが、市役所駐車場は安い。他のところは、1 時間 600 円や 2 時間 2,000 円がある。中心市街地の駐車料金は安価だと、車が市街地に入ってしまう。今の考え方は市街地の外側の駐車場に停めて頂いて、公共交通で中に入って頂くということなので、市でもそういうことを考えて、以前はもっと安価であったため値上げしたが、それでも利用者が多いというのが現状である。

【●●委員】 短時間だから利用者が多い。確かに入り口で待っている。紀伊国屋に買い物に来た人が、紀伊国屋の駐車場がいっぱいだと市役所に入る。ところが、観光ということになると、他の有料駐車場だってもっと安いような気がする。いずれにしても市役所の駐車場を使うのであれば、もっと安くても良いのではないかと思う。上限をいくらか決めるという意味である。

【委員長】 駐車場の問題は先ほども指摘があったので、駐車場の問題も検討してみる必要があ

る。市役所の駐車場だけが全てではない。場所がどこにあると良いのかというのは難しいが、これから長期的にどのように駐車場をコントロールしていくのかということも、街の真ん中の歩行空間を豊かにするためには少し考えなくてはならない。そのためにはソフトの話もあるかもしれない。アンケートにすぐには反映できないが、これから検討していきたい。

【●●委員】 このアンケートで休日特定とどこに書いてあるのか。郵送で頂いて見たが、例えば市役所の駐車場の場合、休日の市役所駐車場利用者アンケートと書かないと見落とすのではないか。

【事務局】 配るのが土日祭日で、平日には配らない。そのため回答者の方は間違えない。戻られたら回収箱に入れて頂くことを考えている。

【●●委員】 鎌倉地域に関するアンケート調査は一般市民が対象か。

【事務局】 了承頂いた後に、鎌倉地域 600 部、他の地域 100 部ずつということで、18 歳以上の方で、電算のふるい分けをし、ランダムに郵送方式で送らせて頂いて回収は郵送で戻して頂くことで実施したいと思う。

【委員長】 アンケートを含めて、まだ意見を頂いていない委員の方もいるので、できれば各委員から少しずつ発言して頂く方が良いと思う。事業者と行政の方で、まだ発言頂いていない方に全体に渡って何か意見を頂きたい。

【●●委員】 アンケートの件だが、市役所駐車場以外に一般の駐車場という意見は出なかったのか。

【事務局】 鎌倉には駐車場組合というのがなく、個別で経営しているので、お願いするにしても非常に手間等がかかる。今回は市役所駐車場に限らせてアンケートをやりたいと考えている。将来的には一般の駐車場も実施をしなければいけないと考えている。

【●●委員】 今日はじめて出席させて頂いて色々勉強させて頂いている。こういう問題があるということを改めて確認、自覚をして、これから勉強させて頂きたいと思う。

【●●委員】 私も前回の 1 回目には出席していないので、大変失礼だが、この委員会の最大の論点を端的に教えて頂きたい。交通問題の解決のためにこの委員会があると思うが、その手法としてパーク&ライドや環境手形の使用促進とか、その先行くとロードプライシングなどの交通規制とか、どこまでやるのかということをお話し合う委員会なのか。データ収集のためのアンケートだと思うがこのアンケートをとった結果どうするのか。やはりパーク&ライドを進めるには、こういうことをやっとなければいけないということをお出すためにやるというのは分かるが、そのところ簡単に説明して頂きたい。

【委員長】 共通の理解は大切なので、市が何を考えてこういう委員会を作ったかを簡単に説明して欲しい。

【事務局】 この検討委員会は条例化した市長の諮問機関である。そのため、市長が皆さんにお

願いをして、特に鎌倉地域の交通問題として、世界遺産登録をされた後に、今まで以上に渋滞するのではないかと、色々な方の意見がある。それに対応するために、市長が検討委員会を設置して、行政だけではなくて、市民、商業者、交通事業者、行政機関、色々な方の意見を聞きながら、今後進めて行こうということで、1回目は皆さんから色々意見を頂いた。平成7年、8年からのデータは古いのではないかと、今はどうなっているのだということ、まず確認をしようということで、このような既往のデータを揃え、今後どのように議論していくかという参考資料とした。今回2回目ということで先ほどお話しさせて頂いたように、今後の方向性に関して、どのように進めて行けば良いか議論頂きたい。

【●●委員】言うとおりでと思うが、あそこの箇所ここの箇所など、個別に表していくとたぶん何も始まらない話になってしまうと思う。パーク&ライドか環境手形か交通規制なのか行き着くまでのために、データが必要だということ、行き着いた結果、この手法を取るという論法を説きたいというのは分かるが、もう少し歩を早くやっつけていかないといけないのではと思う。

【●●委員】今日の委員会は私が今まで出てきた専門部会の上位なので、決めるレベルが高いと思ってきた。専門部会とこの検討委員会はほぼ同じとはいえ、完全に一致していないわけで、今日も貴重な案が出たのは事実であるが、今回のこの会議は、何か違うなど、もっと上層、会社で言えば重役会議をする、常に上に向けた一步を進める会議であるべきだと思う。このような組織では難しいが、次回もまた最初から仕切り直しになるのを恐れている。

【委員長】委員会のガバナンスを考えなくてはならない。行政、交通事業者の各委員からも意見を頂きたい。

【●●委員】平成7年と現況の比較をして、良く分かる資料を頂き感謝する。自転車交通量が大きく増えているので、今後どうして行くのかと思ったが、部会の方では条例に基づいて推進計画を策定していくとのことである。自転車安全総合推進計画について、スケジュール的なものがあれば伺いたい。

【事務局】鎌倉市自転車安全利用促進条例は市議会議員が自ら作った条例であるが、推進計画は今年度中に策定予定である。市民安全課で、自転車の事故増加傾向にあるので、市の職員も安全教育について研修を受けているところである。

【●●委員代理】マイカーの交通総量を削減して、渋滞を緩和するためには、マイカーから公共交通機関に転換しなくてはならないと、今日ここに来るまで思っていた。そのためにはマイカーから電車、バスを利用してくださいという広報を地道にやっつけていかないといけないと思う。しかしながら冒頭で、江ノ電もパンク状態だと言われると、転換先をどこに持っていくのか非常に難しい課題だということで、多元的に考えなくてはならないというか、バランス感覚をもってこの問題を解決していかなくてはならないと思う。

【●●委員】今日は事務局から十分に説明がなかったが、重要なのは資料の最後の24ページ、25ページで、これは専門部会でもこれまでの施策をもう一度見直してみようと一覧表にして

頂いたものである。この中を見ても、混雑の状況について、道路についても公共交通についても検討委員の皆さんは認識しておられる。その中で何ができるのかということ、個別の対策案は別として、これまで鎌倉市の観光基本計画に携わってきた者としては、交通施策側には交通需要マネジメントという考え方があり、観光施策側は観光需要マネジメントという概念があり、観光需要を平日と休日で平準化させるかであるとか、時間とか空間でどうやってバラつかせるかということ、一般の観光施策を作る中でも議論してきて、できれば交通需要の管理、交通事業者側の政策を検討すると併せて観光需要のマネジメントを考えなくてはいけない。先ほども特異日の議論があったが、こういった特異日は個別の具体的な交差点の改良だけでは十分に対処できないところもある。一年を通じて休日よりも平日に来てもらおうとか、そういった抜本的な対策が必要になるのではなかろうかと考えている。一方で先ほど意見にあった駅や駐車場の待ち行列は裏返して見ると、鎌倉市内でもある程度観光地を見まわったあとに、観光施設に行くところがなくて、言い方は悪いが、それ以上見る魅力のある観光施設がないから、もう駅で並んで待っていることになる。そのようなことを考えると、平日も含めて、ピーク時間も含めて、時間をつぶせる、あるいは観光客の皆さんにお金を使って頂けるような場所を造る。先ほど意見のあった、歩いて魅力的な観光地を造るとか観光の魅力作りと合わせて、交通施策を議論するとかそういった場にこの委員会がなっていくと良いと全体としての印象は持っている。落とすところをどうするのかということもあるが、事務局でデータを作成している、VICSの渋滞情報といったものを一年間ずっと並べて、52週間のうちのどの日が多くてどの時間帯が一番混雑しそうなのか分かってくれば、より精緻な施策を検討できるようになると思うので、まずはそのデータが出てくるのを待った上で、特異日の検討をすれば良いのではないか。そのデータとアンケートを活用しながらより深い議論が次の委員会でできれば良いと思う。アウトカムとして、如何に混雑が減ったとかそういったことだけではなくて、車の政策の評価も書かれていたが、観光客の皆さんに気持ちよく過ごして頂いて、一方で観光事業者の観点からすると、より多くのお金を使って頂いて、より長く鎌倉に滞在して頂くといったような観点も必要だと思うので、例えば休日に観光客が非常に多いときに、少し人数としては減らすけれども、平日に来てもらったり、別の時間に来てもらったりすることで、観光施設としては変わらないとか観光滞在時間は延びていくという別の視点からのアウトカム資料を整理することによって、観光需要と交通需要のバランスを具体的に検討できるのではないかと思う。それについても今後専門部会や委員会で議論できると良いと考えている。

【委員長】 アンケートについて特段気づいた点がなければ、専門部会の会長に、最後一任させて頂いて、もし気づいた点があればまた個別に紹介して頂きたい。今日も色々な意見が出たので、専門部会をとおしても受けて頂くと幸いである。本日色々なデータを精緻に出してもらったが、例えば資料5ページを見ると、鎌倉の月別観光客数が出ており、圧倒的に600万人が1月、正月にどんと来る。全部で1,800万人という中なので特に多い。そこに全部対応するというのも、やろうと思うと交通を止めないといけなくらいの話になってしまうので、そこは別の考え方をしなくてはいけない。ではどのレベルが我々の対象にする日なのか。平日ではなく休日だとすればどれくらいの方々が実際訪れているか、75パーセントぐらいが電

車で来られて2割くらい自動車だということであるが、これも実は資料の4ページを参照して頂くと、今は既に高齢者率では65歳以上が3割。ですから75歳を越えられて、例えば観光に行きたいとしたら、なかなか歩いて電車とというだけで辛いのは事実。そうすると、がんばって1割とかは、どうしても車で来て頂くしかない。ハンディキャップのある方も2パーセントか3パーセントいる。そう思うと、今の車の2割という数字は結構頑張っている数字だろうと思う。ただ、その2割がそれでも混雑を来たしている。ということはひとつそれを制御するためには、どこを走ってもらうのか、どこに停めてもらうのか、今日出ている駐車場の話も非常に大事ではないかと私は感じている。駐車場を探し回って、うろつくのはだいぶ減ったのかなという気はするが、それでもあの駐車場に行くには通らなければいけないし、右折もしなければいけない、というのが色々な意味で障害になっている可能性もある。観光で訪れる自動車というのをどのレベルだったら、例えばパーク&ライドで受け止めるのはこのくらいならいけるという、そういう目安が必要である。我々がこの辺を狙って頑張っているのではないかとというのが少し浮かび上がってくると説明がしやすいなという感じを持っている。特異日という定義はもちろん分かり易いと思うので、我々としては、鎌倉が世界遺産になり、さらに人が訪れる可能性が大いにあるというときに、日常生活も障害を来さないこと、しかも世界遺産の街として鎌倉がホスピタリティを持って多くの方に来て頂けること、その二つのことをどういうレベルでうまく整えるかということである。お正月のような日を解決しようというのは正直言って議論していても仕方がないという気はしている。本当に特別だと思う。それがゴールデンウィークもそうするのかというと問題提起としては大事な話で、どのレベルになったらどのフェーズに切り替えるのか考えなければいけないという気はしている。そういうことも含め、アンケートもやって頂くので、これまで皆さんが感じていた交通機関とか、交通問題の認識が少し変わっているかもしれないことを期待しつつ、我々が提示する次の策が皆さんに受け入れて頂けるようなものになるよう頑張っていきたい。私どものこの委員会は、この予定によれば次は2月なので、その間に専門部会で頑張っていきたい。

【副委員長】 今日委員の皆さんからミクロからマクロまで色々な意見を頂いた。それぞれ大事な意見だと思うので、それを踏まえて、委員長が述べたように市民の皆さんが最終的にこれなら乗れるという、しかも問題があるレベルまで解決できるような、そういう案を皆さんと一緒に考えていき、次回以降の専門会議で案をまとめていきたい。

【委員長】 次回以降、是非、交通事業者あるいは、道路管理者の方の意見を頂いて、市民の方に説明しやすいシナリオを描けると良いと思う。最後に何か発言があれば頂きたい。

【●●委員】 今日の会合の事は朝日新聞に載っていた。あの記事は市役所の方が取材を受けたのか。

【事務局】 今日は取材に来ていないが、鎌倉支局長が私どもの所に来て、この資料をどうなのかというような質問を頂き、資料を見て記事を書いて頂いたということである。今回こういう議論をするに当たって、行政だけではなく市民の方、色々な方を含めて、今後どのようにするかということで、今日は取材に来る予定だった。

【委員長】 多くの方にこういう議論を知って頂くのも大変大事なので、メディアの方にも是非傍聴頂きたいと思う。今日の専門部会からの提案はその方向で承認されたと理解したので、引き続き専門部会で重ねて議論を行って頂きたいと思う。多くの方が傍聴されているようだが、専門部会あるいはこの委員会に限らず、是非こういうことを考えた方が良くないと聞いたなら、市の方に一報頂ければ、この場だけが議論の場ではないのでいつでもお受けしたい。

3. その他

【事務局】 次回の検討委員会の日程は来年の2月を予定している。決定次第、委員の皆さんに通知させて頂きたい。

皆さんから貴重な意見を頂いた後に、11月にアンケートを実施し、その後、専門部会の委員の方を中心に議論して頂き、第3回の検討委員会で反映していきたい。

以上